

定住自立圏構想

中心市宣言書

平成27年2月10日

滋賀県東近江市

東近江市定住自立圏中心市宣言

平成17年2月11日に八日市市、永源寺町、五個荘町、愛東町、湖東町の1市4町が合併し、翌平成18年1月1日に能登川町、蒲生町が加わり、鈴鹿から琵琶湖まで広がる、自然と歴史、文化や伝統が満ち溢れた地域資源を持つ「東近江市」が誕生した。

旧八日市市の区域には、国や県の行政機関をはじめ中核的な医療機関、大学や高等学校などの教育機関、公共交通や商業施設などの都市機能が集積しており、旧町から旧八日市市への通勤、通学や消費購買の割合も高く、旧八日市市がこの地域の住民生活や経済、社会などにおいて中心的な役割を担っており、東近江市は一定の自立した機能をもった圏域を形成している地域である。

わが国では「人口減少時代」に突入し、今後は、人口減少と地域経済の縮小の悪循環を招かぬよう、危機感をもって対応する必要がある。

本市においても、昨今の人口動態を見ると、人口が流出している状態であり、人口減少に歯止めをかけ、持続可能な地域社会をつくらなければならない。

人口減少社会に立ち向かい地方を創生するためには、中心市街地の賑わいを創出し、圏域の暮らしに必要な都市機能を充実させていくべき旧八日市市地域と、地域生活を守る上で必要な生活機能を優先して充実させる旧6町地域が、それぞれもつ機能を有機的に連携させ、定住のための暮らしに必要な機能を確保することをもって、この地域へ若者の移住が進み、ここで生まれ、育ち、住み続けて頂けるようなまちを目指すことが必要であると考えます。

このため、ここに、旧八日市市を中心地域とし、旧6町を近隣地域とした「東近江市定住自立圏」の構築を掲げ、圏域の生活機能やネットワークの強化を図り、地域の特性を生かした魅力ある地域づくりに取り組んでいくことを宣言する。

平成27年2月10日

東近江市長 小 椋 正 清

定住自立圏形成の背景と取組

中心地域となる旧八日市市への都市機能の集積状況及び旧6町との連携・交流の状況、及び今後展開しようとする取組は、次のとおり。

1 旧八日市市の都市機能の集積状況

	都市機能	施設名
行政	○国	大津地方法務局東近江出張所、東近江区検察庁、農林水産省近畿農政局東近江地域センター、東近江公共職業安定所、東近江労働基準監督署
	○裁判所	東近江簡易裁判所
	○県	中部県税事務所、東近江環境事務所、中部森林整備事務所、東近江健康福祉事務所（東近江保健所）、東近江農業農村振興事務所、東近江土木事務所、東近江警察署
教育	○大学	びわこ学院大学、びわこ学院大学短期大学部
	○高等学校	県立八日市高等学校、県立八日市南高等学校、県立八日市養護学校、滋賀学園高等学校、司学館高等学校
	○各種学校等	八日市自動車教習所
交通	○国道	国道307号、国道421号
	○高速道路	名神高速道路（八日市IC）
	○鉄道駅	近江鉄道八日市駅他7駅
商業	○大規模小売店舗	店舗面積10,000㎡以上 1店舗
	○生産物流施設	八日市公設地方卸売市場
医療	○救急告示病院二次救急医療	国立病院機構東近江総合医療センター
	○基幹型臨床研修病院	国立病院機構東近江総合医療センター
	○地域がん診療連携支援病院	国立病院機構東近江総合医療センター
	○神経難病医療拠点病院	国立病院機構東近江総合医療センター

2 旧6町住民の都市機能利用状況

次表のとおり、旧6町の住民も旧八日市市に集積された都市機能を活用しているなど、旧八日市市の都市機能は近隣地域にも及んでおり、旧八日市市がこの地域で、経済、社会、文化など住民生活において中心的な役割を担うなど旧6町とは密接な関係を継続している。

①国立病院機構東近江総合医療センター地区別患者数

(外来患者) (単位：人)			(入院患者) (単位：人)		
	外来患者数	割合		入院患者数	割合
旧八日市市	30,195	39.7%	旧八日市市	53,293	51.1%
旧永源寺町	5,349	7.0%	旧永源寺町	7,396	7.1%
旧五個荘町	4,867	6.4%	旧五個荘町	5,055	4.8%
旧愛東町	3,638	4.8%	旧愛東町	5,042	4.9%
旧湖東町	3,858	5.1%	旧湖東町	4,604	4.4%
旧能登川町	3,984	5.2%	旧能登川町	3,336	3.2%
旧蒲生町	4,761	6.3%	旧蒲生町	4,848	4.7%
市 外	19,427	25.5%	市 外	20,655	19.8%
計	76,079	100.0%	計	104,229	100.0%

注) 平成25年度患者数

注) 平成25年度患者数

②旧八日市市への消費購買動向

	食料品類	身回雑貨類	衣料品類	文化品類	家庭用品類
旧永源寺町	46.3%	60.1%	54.3%	53.5%	57.7%
旧五個荘町	34.0%	35.0%	39.2%	32.7%	31.6%
旧愛東町	58.0%	67.7%	63.9%	65.1%	67.5%
旧湖東町	35.6%	46.2%	53.3%	45.2%	39.4%
旧能登川町	2.9%	5.2%	9.2%	4.8%	4.6%
旧蒲生町	29.6%	39.2%	34.8%	34.9%	39.7%

資料：平成18年消費購買動向調査

3 東近江市に対する通勤・通学者数の状況

①旧6町から旧八日市市への通勤・通学者数の状況

旧6町から旧八日市市に対する通勤・通学割合は、次表のとおりで、旧八日市市はこの地域において中心的な役割を担っている。

旧能登川町については、通勤通学割合が10%を下回るものの、広域合併の構成団体であることから、合併1市圏域を形成する一体不可分な地域として連携して定住自立圏を目指すものである。

旧6町からの状況

(単位：人)

	常住就業者数・通学者数(A)	自宅従業者数(B)	(A-B=C)	うち旧八日市市に通勤通学する就業者数・通学者数(D)	割合(D/C)
旧永源寺町	3,526	649	2,877	877	30.5%
旧五個荘町	6,443	772	5,671	660	11.6%
旧愛東町	3,370	538	2,832	561	19.8%
旧湖東町	5,279	863	4,416	687	15.6%
旧蒲生町	7,799	927	6,872	1,004	14.6%
旧能登川町	12,859	1,588	11,271	745	6.6%
	39,276	5,337	33,939	4,534	13.3%

資料：平成12年国勢調査

②隣接市町からの通勤・通学者数の状況

隣接市町から広域合併した東近江市に対する通勤・通学割合は次表のとおり。

隣接市町からの状況

(単位：人)

	常住就業者数・通学者数(A)	自宅従業者数(B)	(A-B=C)	うち東近江市に通勤通学する就業者数・通学者数(D)	割合(D/C)
近江八幡市	42,843	3,863	38,980	4,417	11.3%
日野町	12,823	1,359	11,464	1,682	14.7%
竜王町	8,113	920	7,193	678	9.4%

資料：平成22年国勢調査

4 展開しようとする取組

中心地域と近隣地域が、それぞれの地域の多様な特性を生かしながら、圏域の住民生活を支える都市機能の整備と、生活を守り維持するための生活機能の整備を両立させ、圏域全体の活性化と安心して暮らせる地域とするために展開しようとする取組は、以下のとおり。

①生活機能強化のための取組

ア 保健・福祉・医療

- ・保健体制の充実
- ・地域福祉、子育て支援の充実
- ・地域医療体制の向上

イ 消防・防災

- ・消防防災体制の強化

ウ 教育

- ・教育、スポーツ環境の充実

エ 産業

- ・農業、特産の振興
- ・森林等地域資源の活用の推進
- ・企業誘致、商業の活性化の推進

②結びつきやネットワークの強化に係る取組

ア 地域交通

- ・公共交通の維持確保
- ・道路の整備促進

イ 情報・交流

- ・地域情報の共有、発信の強化
- ・観光、定住移住の推進

③圏域マネジメント能力の強化に係る取組

ア 人材

- ・職員の能力向上
- ・外部からの専門アドバイザー等の導入